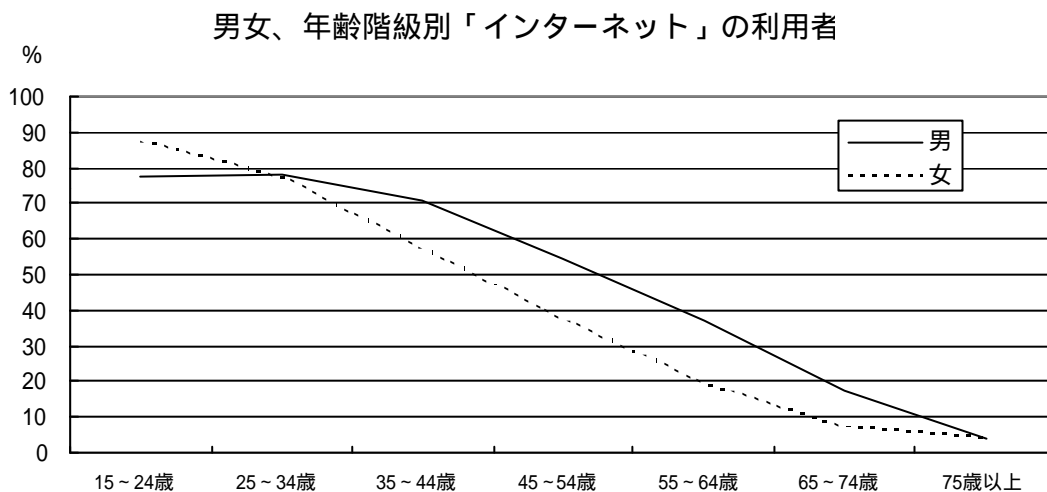


1 インターネット

男性の54%、女性の45%の人が「インターネット」を利用

過去1年間（平成12年10月20日～13年10月19日）に「インターネット」を利用した人は63万7千人で、10歳以上人口に占める割合（利用者率）は49.6%で、全国平均(46.4%)より3.2%高く、全国で8番目となっている。利用者率を男女別にみると、男性は54.3%（利用者数33万2千人）、女性は45.3%（30万5千人）となっており、男性が女性より9ポイント高くなっている。

「インターネット」の利用者率を年齢階級別にみると、男性は25～34歳(78.1%)、女性は15～24歳(87.4%)で最も高くなっている。また、55歳以上では男性(24%)の方が女性(11%)より2倍以上高くなっている。



約4割の人が「情報交換」での利用、約1割の人が「商品やサービスの予約、購入、支払い等」の利用

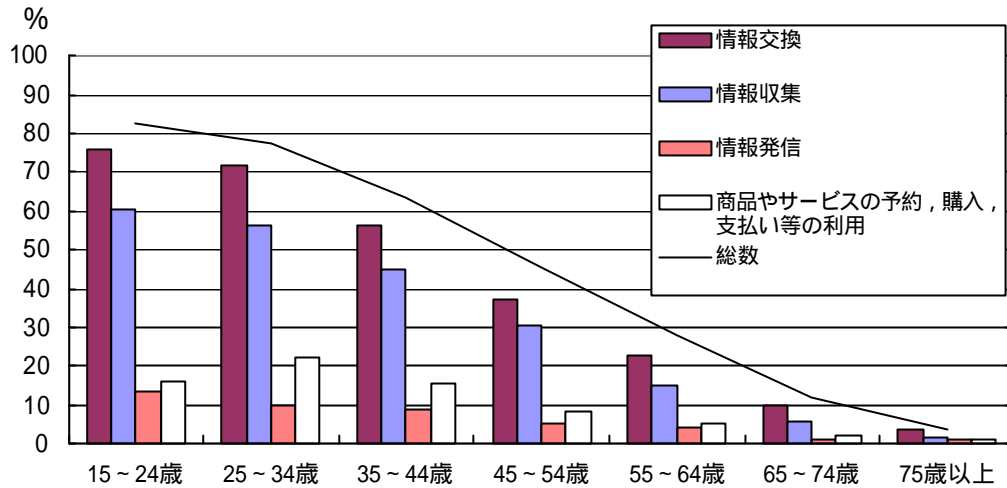
「インターネット」の利用者を利用の形態別にみると、電子メールなどの「情報交換」に利用した人が55万5千人（利用者率43.2%）、ホームページの閲覧などの「情報収集」に利用した人が43万6千人（33.9%）、ホームページの開設などの「情報発信」に利用した人が8万5千人（6.6%）などとなっている。

特に、「情報交換」は全国平均(39.5%)より3.7%上回っている。

これを年齢階級別にみると、「情報交換」(71.9%)、「情報収集」(54.6%)とも15～24歳が最も高くなっている。

また、「商品やサービスの予約、購入、支払い等」に利用した人は10.4%となっている。これを年齢階級別にみると、25～34歳が22.3%で最も高くなっている。

年齢階級、利用の形態等別「インターネット」の利用者率



2 ボランティア活動

1年間に「ボランティア活動」を行った人は41万4千人、行動者率は32.2%

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は41万4千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は32.2%で、全国平均（28.9%）より3.3ポイント上回っている。行動者率を平成8年と比較すると、2.3ポイント上昇している。

行動者率を男女別にみると、男性は30.6%（行動者数18万7千人）、女性は33.5%（22万6千人）で、女性が高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は2.3ポイント、女性は4.6ポイント上昇している。

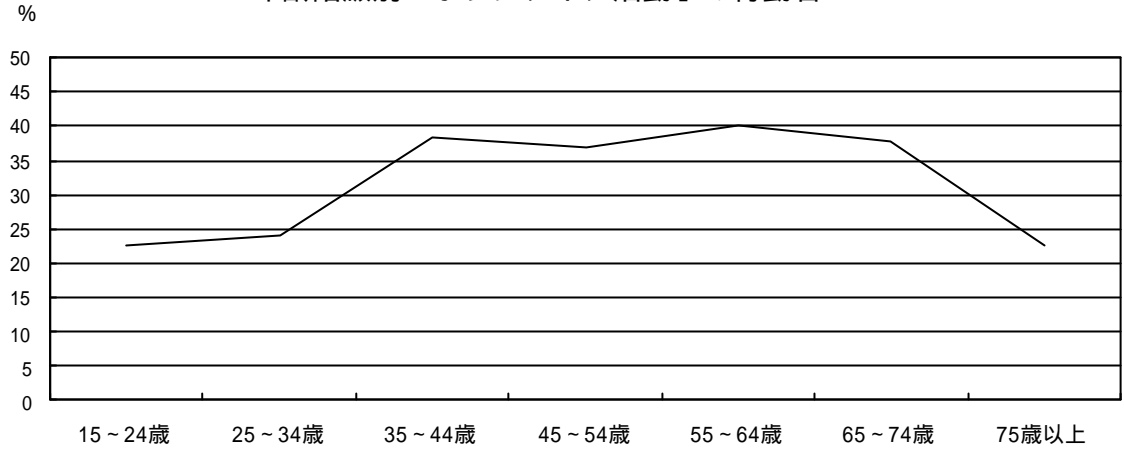
55~64歳で最も高い「ボランティア活動」の行動者率

「ボランティア活動」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、55~64歳が40.1%と最も高く、逆に15~24歳が22.7%と最も低くなっている。

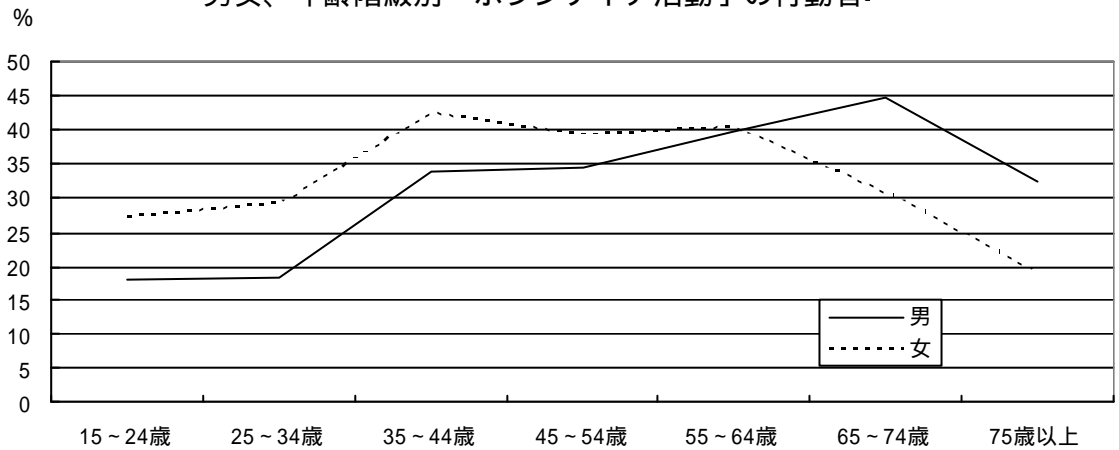
これを平成8年と比較すると、25~54歳で減少し、その他の年齢層ではいずれも増加している。特に55~64歳で大幅に上昇している。

行動者率を男女別にみると、男性では、65~74歳（44.7%）、女性では、35~44歳（40.4%）で高くなっている。

年齢階級別「ボランティア活動」の行動者²



男女、年齢階級別「ボランティア活動」の行動者²



行動者率が最も高いのは「まちづくりのための活動」

「ボランティア活動」を行った人を活動の種類別にみると、「まちづくりのための活動」が 23 万 1 千人（行動者率 18.0%）と最も多く、次いで、「自然や環境を守るための活動」が 9 万 7 千人（7.5%）、「高齢者を対象とした活動」が 7 万 1 千人（5.5%）、「子供を対象とした活動」が 7 万人（5.5%）となっており、特に「まちづくりのための活動」の行動者率は、全国平均より 4 ポイント上回っている。

「子供を対象とした活動」の行動者率は 30 歳代後半と 40 歳代前半の女性が際立って高い

「ボランティア活動」の行動者（15 歳以上人口）率が高い種類を男女ごと年齢階級別にみると、「障害者を対象とした活動」は 15～24 歳、「子供を対象とした活動」は 35～44 歳で、それぞれ男女とも高くなっている。

また、男性と女性の行動者率の差が大きい種類を年齢階級別にみると、「健康や医療サービスに関係した活動」では、男性は、45～54 歳で高く、女性は 15～24 歳で高くなっている。

また、「まちづくりのための活動」では、男性は65～74歳で高く、女性は45～54歳で高くなっている。

3 旅行・行楽

1年間に「旅行・行楽」を行った人は約108万、行動者率は84.3%で全国3番目

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は108万3千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率)は84.3%と、多くの人々が日常の生活圏を離れて「旅行・行楽」に出かけている。行動者率を平成8年と比較すると、1.7ポイント低下している。

行動者率を男女別にみると、男性は83.2%(行動者数50万9千人)、女性は85.2%(57万4千人)で、女性が2ポイント高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は3.1ポイント、女性は0.6ポイント、それぞれ低下している。

	総 数		男		女	
	行動者数	行動者率	行動者数	行動者率	行動者数	行動者率
総数	1,083	84.3 (-1.7)	509	83.2 (-3.1)	574	85.2 (-0.7)
行楽(日帰り)	907	70.6 (+0.3)	414	67.7 (-3.2)	493	73.2 (+1.6)
旅行(1泊2日以上)	936	72.8 (-3.5)	450	73.6 (-3.9)	486	72.2 (-2.9)
国内旅行	912	71.0 (-3.5)	439	71.9 (-4.1)	473	70.2 (-3.0)
観光旅行	774	60.3 (-3.7)	367	60.1 (-4.5)	407	60.4 (-3.1)
帰省・訪問等の旅行	346	26.9 (-0.7)	158	25.9 (-0.2)	187	27.8 (-1.2)
業務出張・研修・その他	205	15.9 (-1.4)	157	25.6 (-2.4)	48	7.2 (-0.4)
海外旅行	185	14.4 (-0.4)	85	3.9 (-0.2)	100	14.9 (-1.1)
観光旅行	160	12.4 (+0.5)	65	10.7 (-0.3)	94	14.0 (+1.3)
業務出張・研修・その他	35	2.7 (-0.7)	26	4.2 (-1.0)	9	1.4 (-0.3)

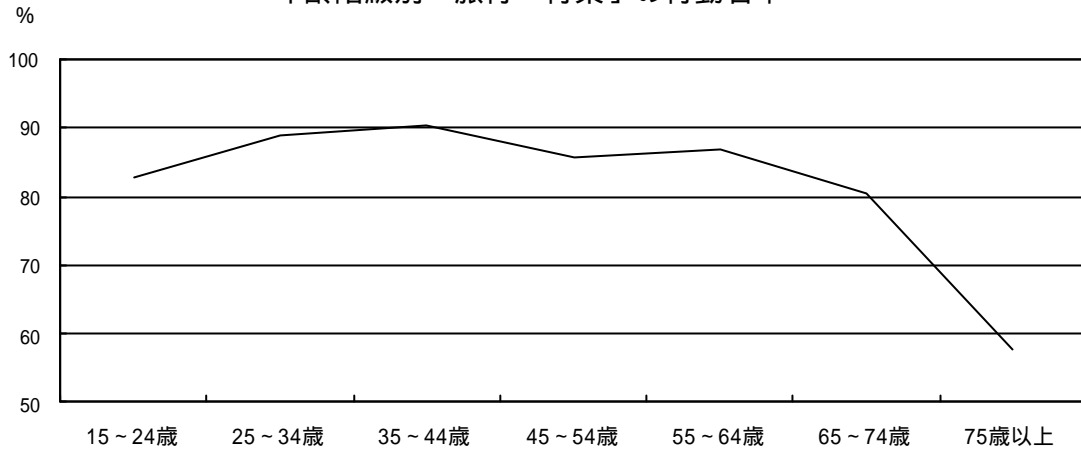
()内は平成8年との比較

男性の30～40歳代、女性の20～30歳代で高い行動者率

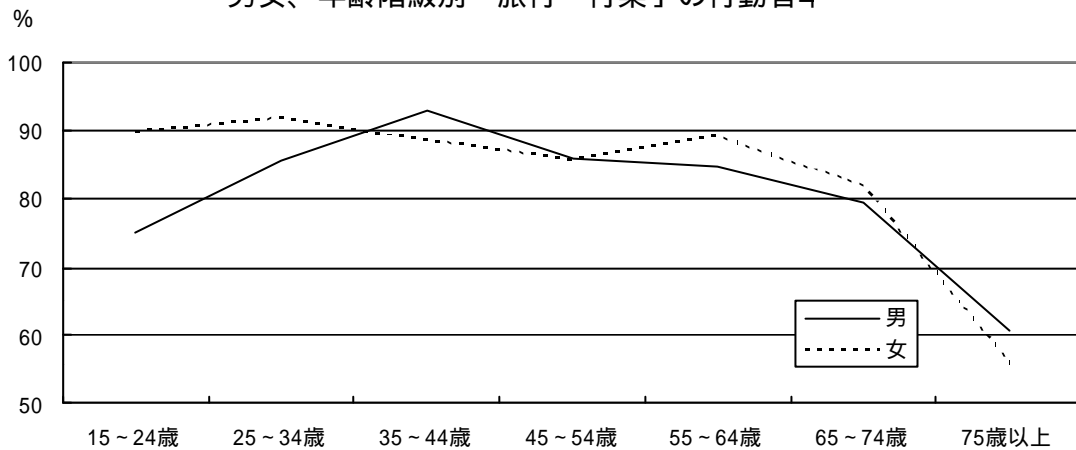
「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別にみると、10歳代後半から年齢が高くなるに従って上昇し、35～44歳で、90.5%と最も高くなり、40歳代後半からは年齢が高くなるに従っておおむね低下している。これを平成8年と比較すると、55～64歳と、75歳以上を除くすべての年齢階級で低下している。特に、25～34歳で低下幅が最も大きく、5.6ポイントとなっている。

また、男女別にみると、女性は15～34歳と、55～74歳で男性より高く、75歳以上で低くなっている。

年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



男女、年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



1泊2日以上の「旅行」の行動者率は7割以上

「旅行・行楽」の行動者率を「行楽」(日帰り)と「旅行」(1泊2日以上)に分けてみると、「行楽」は70.6%(行動者数90万7千人)と、「旅行」は72.8%(93万6千人)と、「旅行」が高く、7割以上の方が「旅行」をしている。これを平成8年と比較すると、「行楽」は0.3ポイント上昇し、「旅行」は3.5ポイント低下している。

「行楽」の行動者率は、ほとんどの年齢層で女性が男性より高い

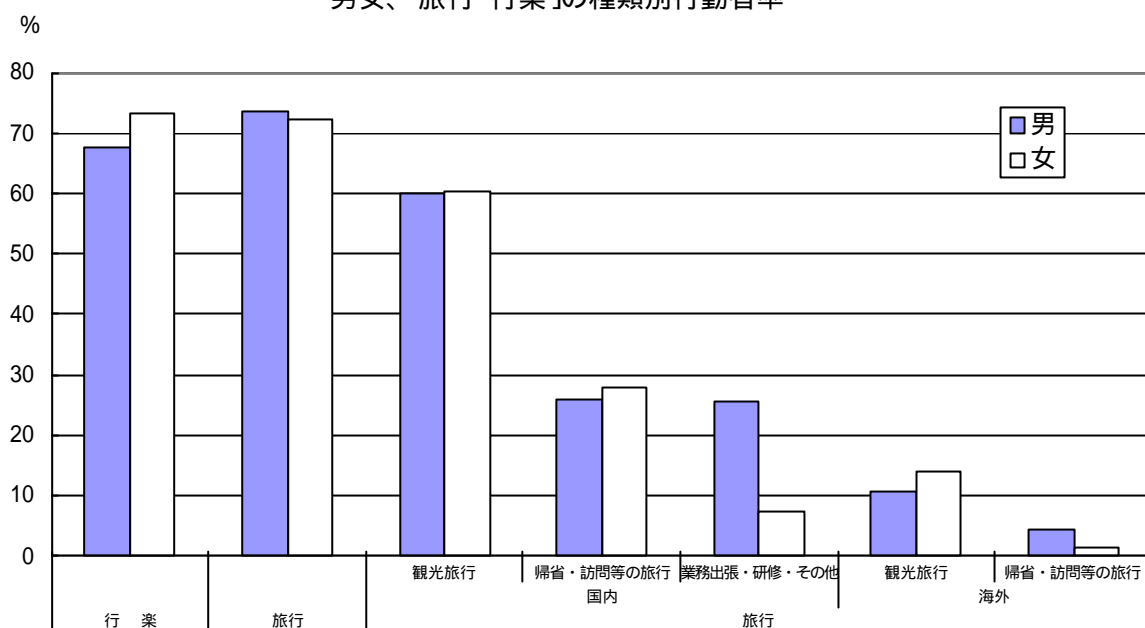
「旅行」と「行楽」の行動者率を男女別にみると、「行楽」は男性が67.7%、女性が73.2%、「旅行」は男性が73.6%、女性が72.2%となっており、「旅行」は男性の方が高く、「行楽」は女性の方が高くなっている。

ただし、「旅行」を種類別にみると、男性が女性より高いのは「業務出張・研修・その他」であり、「観光旅行」と「帰省・訪問等の旅行」では、女性が男性より高くなっている。

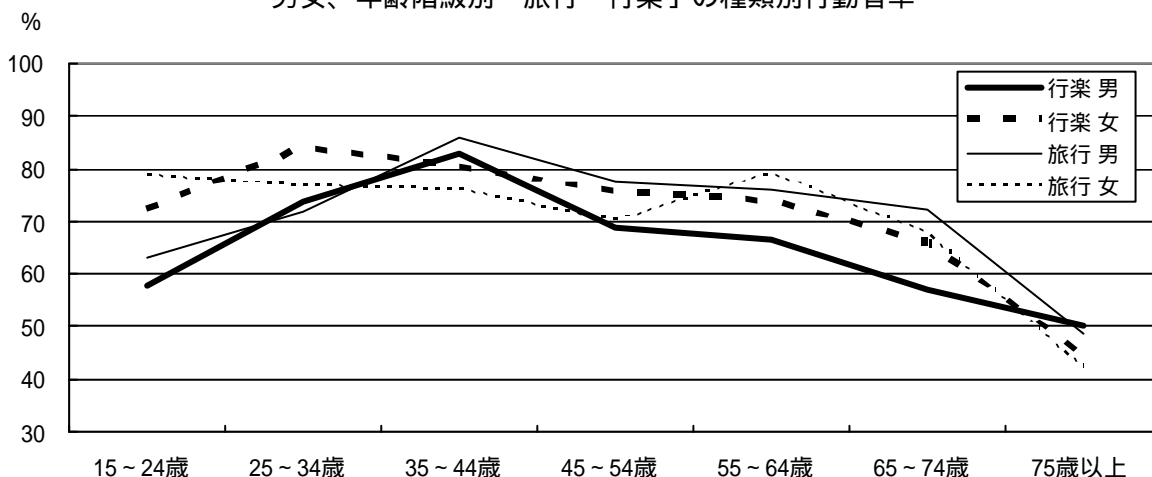
これを年齢階級別にみると、「行楽」では、35～44歳と75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。一方、「旅行」では、15～34歳まで女性の方が高くなっているが、

35 歳以上では逆に男性の方が高くなっている。

男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率



男女、年齢階級別「旅行・行楽」の種類別行動者率

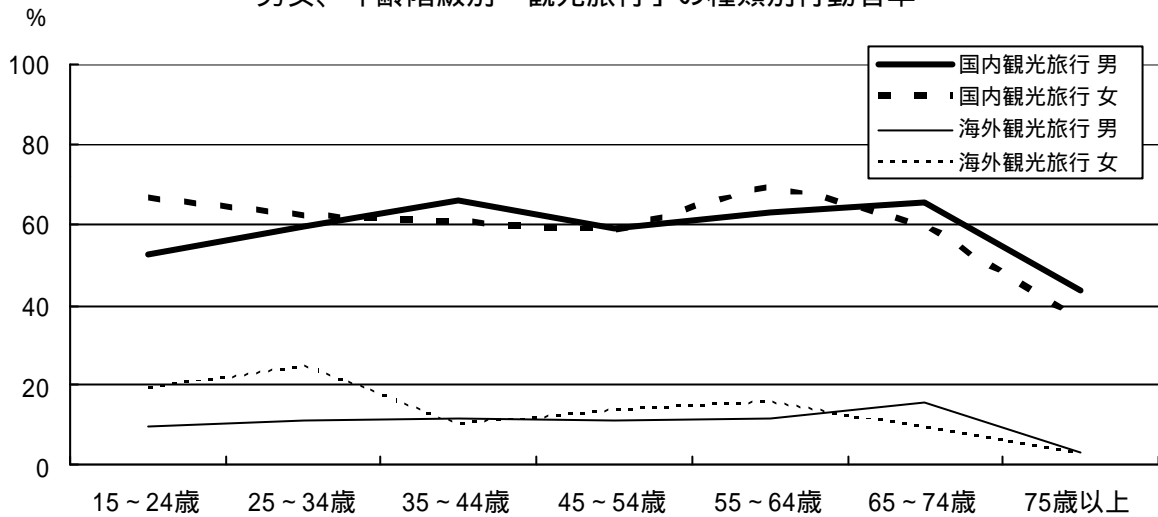


女性の7人に1人は海外観光旅行へ

「旅行」の行動者率をその種類別にみると、国内の「観光旅行」は男性が 60.1%，女性が 60.4%，海外の「観光旅行」は男性が 10.7%，女性が 14.0%と、いずれも女性が男性より高くなっている。

これを年齢階級別にみると、国内の「観光旅行」では、男性は 35～44 歳，女性は 55～64 歳で最も高くなっている。他方、海外の「観光旅行」では、男性は 65～74 歳で最も高くなっており、女性は 25～34 歳で高く、おおむね 5.6 人に 1 人の割合となっている。

男女、年齢階級別「観光旅行」の種類別行動者率



4 学習・研究

1年間に「学習・研究」を行った人は約53万人、行動者率は41%

過去1年間に何らかの「学習・研究」¹⁾を行った人は52万7千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は41.0%で、全国平均より4.8%上回り、東京都、神奈川県、千葉県について4番目の高率となっている。行動者率を平成8年と比較すると、8.8ポイント上昇している。

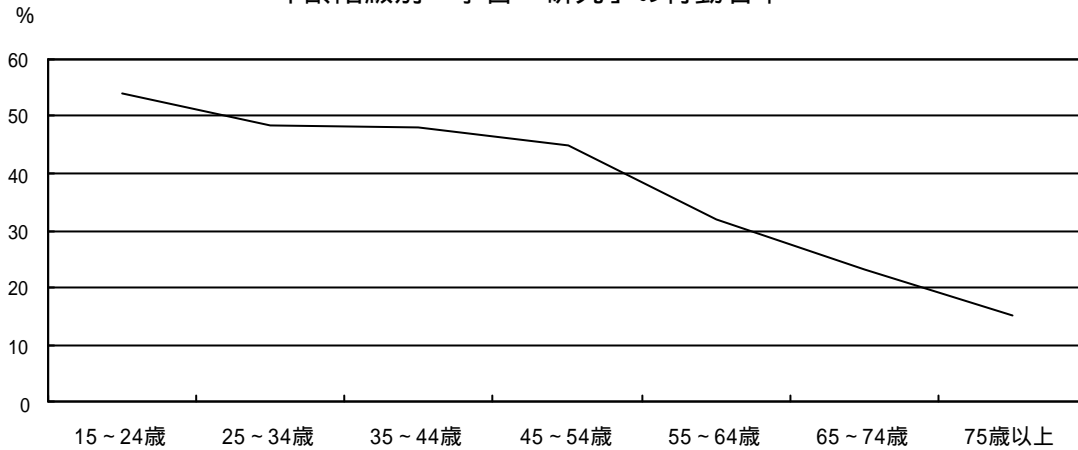
行動者率を男女別にみると、男性は40.6%（行動者数24万8千人）、女性は41.2%（27万8千人）で、女性の方が0.6ポイント上回っている。これを平成8年と比較すると、男女とも8ポイントを上回る上昇となっている。

若年層で高い「学習・研究」の行動者率

「学習・研究」の行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳で54.1%と最も高くなっており、年齢が高くなるに従っておおむね低下している。これを平成8年と比較すると、すべての年齢階級で上昇している。

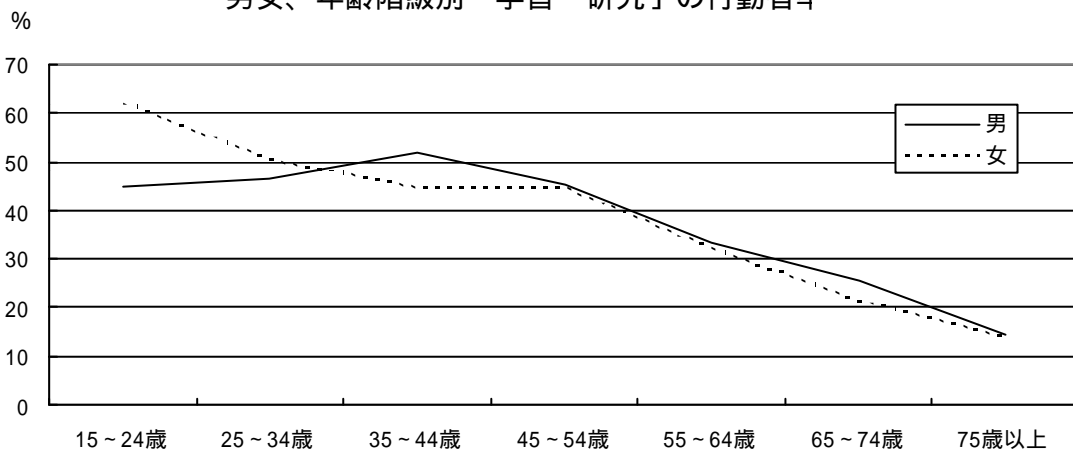
¹⁾ 「学習・研究」は、児童・生徒・学生が授業、予習、復習として行うものや社会人の職場研修を含まないが、クラブ活動や部活動を含む。

年齢階級別「学習・研究」の行動者率



また、男女別にみると、15~34歳では女性の方が高くなっているが、それ以外の年齢層では男性の方が高くなっている。

男女、年齢階級別「学習・研究」の行動者率



「パソコン等の情報処理」の行動者率は約2割

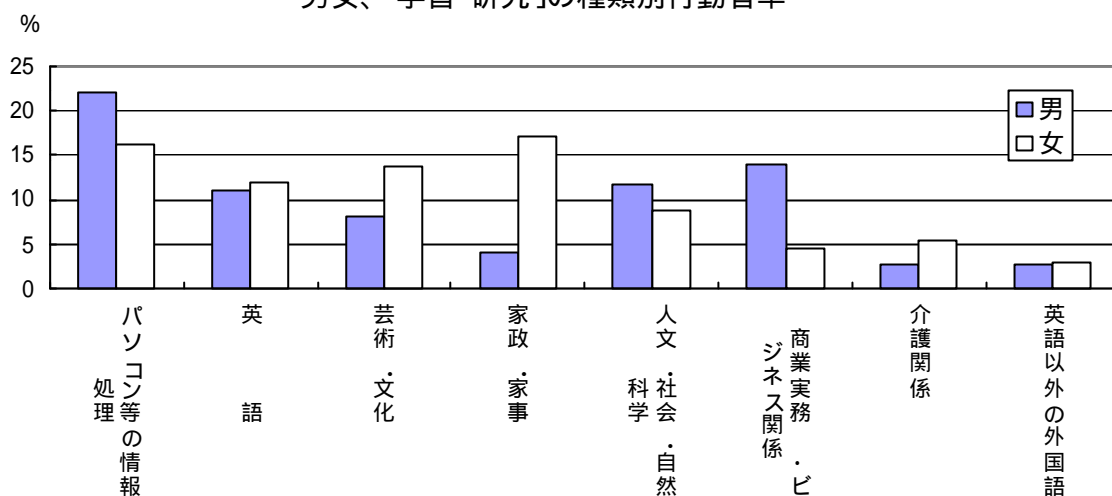
「学習・研究」を行った人をその種類別にみると、「パソコン等の情報処理」が24万3千人（行動者率18.9%）で最も多く、次いで、「英語」が14万7千人（11.5%）、「芸術・文化」が14万2千人（11.1%）、「家政・家事（料理・裁縫・家庭経営等）」が14万人（10.9%）の順で、全国と同様な傾向にある。また、その行動者率はいずれも全国平均より高く、特に「パソコン等の情報処理」は3ポイント上回っている。

「パソコン等の情報処理」は男性、「家政・家事」は女性が高い行動者率

「学習・研究」を行った人を男女別にみると、男性は、「パソコン等の情報処理」が13万5千人（行動者率22.1%）と最も多く、次いで、「商業実務・ビジネス関係」が8万5千人（13.9%）、「人文・社会・自然科学」が7万2千人（11.8%）、「英語」が6万7千人

(11.0%)となっている。一方、女性は、「家政・家事」が11万5千人(17.1%)と最も多く、次いで、「パソコン等の情報処理」が10万9千人(16.2%)、「芸術・文化」が9万3千人(13.8%)、「英語」が8万7千人(12.9%)となっている。

男女、「学習・研究」の種類別行動者率



若年層で行動者率の高い「英語」, 青壮年層で高い「パソコン等の情報処理」

「学習・研究」の行動者率を年齢階級別にみると、男性は、15～24歳では、「パソコンの情報処理」が最も高く、次いで、「英語」、「人文・社会・自然科学」、25～34歳では、「パソコン等の情報処理」、「商業業務・ビジネス関係」、「人文・社会・自然科学」、35～44歳では、「パソコン等の情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」、「英語」の順となっている。また、45～64歳では、「パソコン等の情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」、「人文・社会・自然科学」の順、65歳以上では「人文・社会・自然科学」、「芸術・文化」「パソコン等の情報処理」の順となっている。

一方、女性は、15～24歳では、「英語」が最も高く、次いで、「パソコン等の情報処理」、「芸術・文化」、25～34歳では、「パソコン等の情報処理」、「家政・家事」、「英語」の順となっている。また、35～44歳では、「パソコン等の情報処理」、「家政・家事」、「芸術・文化」の順、45～54歳では、「家政・家事」、「パソコン等の情報処理」、「芸術・文化」の順、55～64歳では、「家政・家事」、「芸術・文化」、「パソコン等の情報処理」の順、65歳以上では、「芸術・文化」、「家政・家事」、「介護関係」の順となっている。

5 スポーツ

1年間に「スポーツ」を行った人は約94万人、行動者率は72.9%

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は93万7千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は72.9%で、全国平均より0.7%上回っている。行動者率を平成8年と比較すると、2.7ポイント低下している。

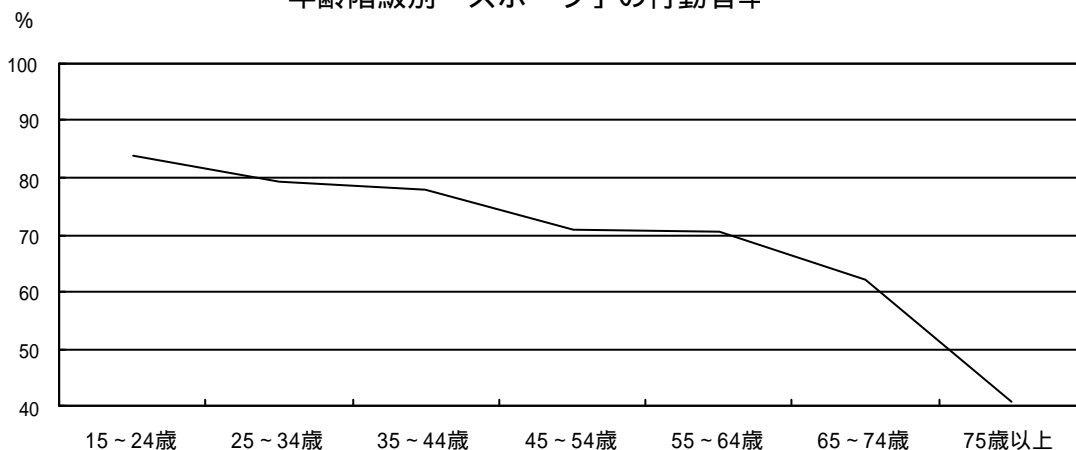
行動者率を男女別にみると、男性は79.5%（行動者数48万6千人）、女性は67.1%（45万2千人）で、男性が女性より12.4ポイント高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は1.8ポイント、女性は3.2ポイント、それぞれ低下している。

10歳代から30歳代で「スポーツ」の行動者率が大きく低下、60歳代以上では上昇

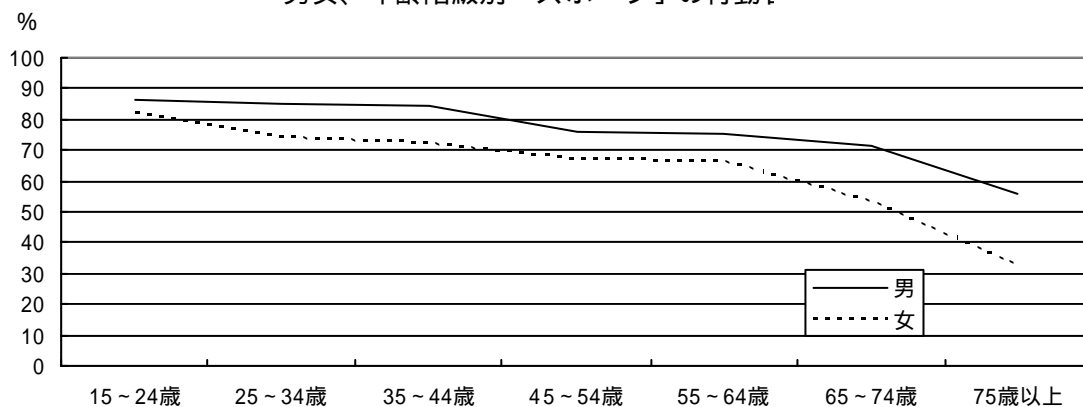
「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が最も高くなっており、年齢が高くなるに従っておおむね低下している。これを平成8年と比較すると、50歳代前半以下の各年齢階級で低下している。特に、30歳代以下の年齢階級での低下幅が大きくなっている。一方、60歳代以上では、行動者率が上昇している。

また、男女別にみると、すべての年齢階級で男性が女性より高くなっており、年齢が高くなるほど男女差が大きくなっている。

年齢階級別「スポーツ」の行動者率



男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



「運動としての散歩・軽い体操」の行動率は45.1%

「スポーツ」を行った人をその種類別にみると、「運動としての散歩・軽い体操」が58万人（行動者率45.1%）と最も多く、次いで、「ボウリング」が29万9千人（23.3%）、「水泳」が28万4千人（22.1%）、「ゴルフ（練習場を含む）」が18万人（14.0%）となっている。

種類別の行動者率を全国平均と比較すると、「ゴルフ（練習場を含む）」、「運動としての散歩・軽い体操」、「水泳」の順で上回り、逆に、「バレーボール」（5.1%）、「サッカー」（4.8%）で下回っている。

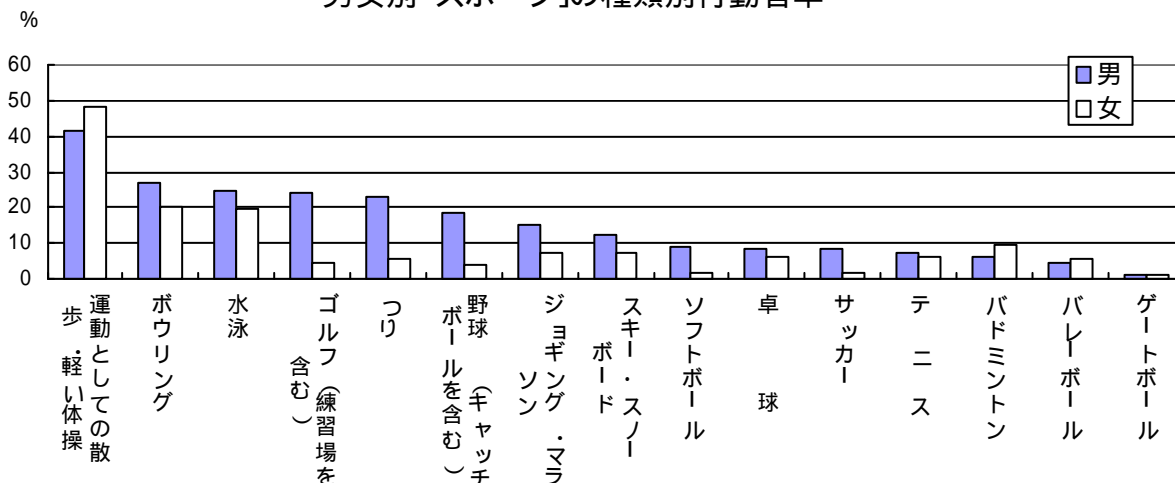
15～24歳代では「ボウリング」、中高年層では運動としての「散歩・軽い体操」の行動者率が最も高い

「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、若年層は多くの種類で行動者率が高くなっており、スポーツ活動が盛んである。15～24歳では、「ボウリング」が最も高く、次いで、「運動としての散歩・軽い体操」、「水泳」などとなっている。25～34歳では、「運動としての散歩・軽い体操」、「ボウリング」、「水泳」の順となっている。35歳以上では、すべての年齢階級で「運動としての散歩・軽い運動」の行動者率が高くなっており、2番目以降に高い種類は年代によって異なり、30歳代と40歳代では「ボウリング」、「水泳」、「つり」、50歳代と60歳代では「ゴルフ」、「つり」、70歳以上では「ゲートボール」、「つり」の順となっている。

行動者率が上昇した「ジョギング・マラソン」、低下した「ボウリング」、「運動としての散歩・軽い体操」など

平成8年と比較可能な「スポーツ」の種類について行動者率をみると、平成8年に比べ上昇したものは「ジョギング・マラソン」（0.6ポイント）となっており、逆に低下したものは、低下幅の大きい順に「ボウリング」（8.2ポイント）、「運動としての散歩・軽い体操」（4.7ポイント）、「ソフトボール」（3.7ポイント）、「バレーボール」（3.0ポイント）、「テニス」（2.6ポイント）などとなっている。

男女別「スポーツ」の種類別行動者率



6 趣味・娯楽

1年間に「趣味・娯楽」を行った人は約112万人、行動者率は87.0%

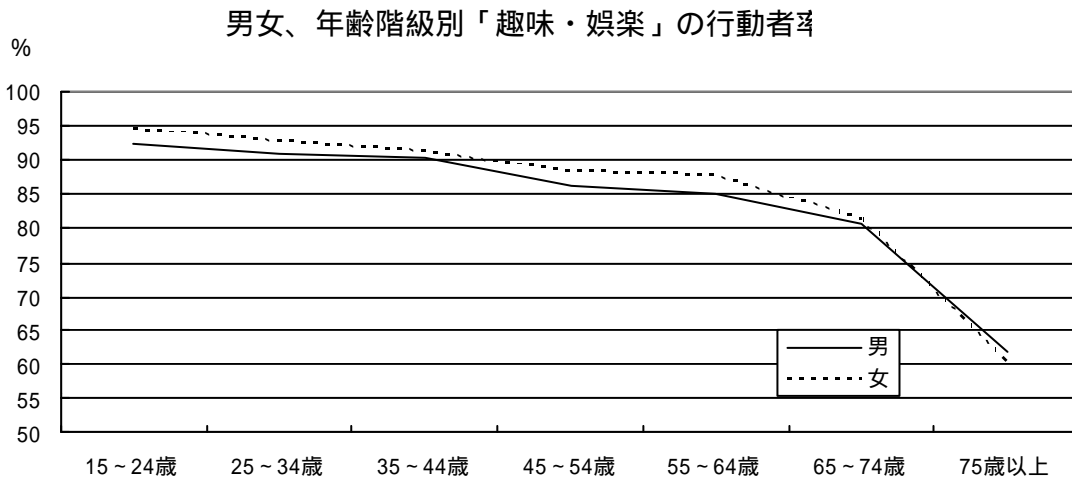
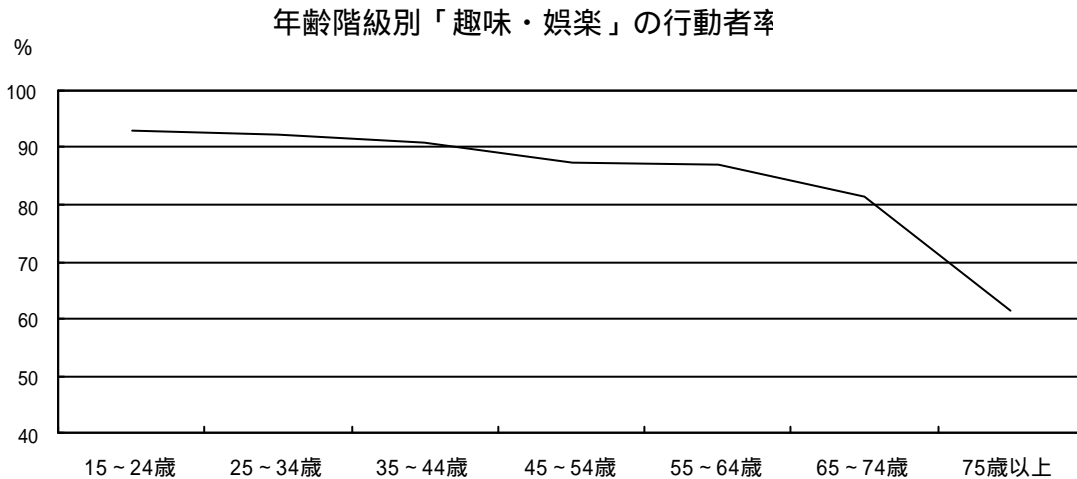
過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は111万8千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は87.0%で、全国平均より1.1%上回っている。行動者率を平成8年と比較すると、4.0ポイント低下している。

行動者率を男女別にみると、男性は86.9%（行動者数53万1千人）、女性は87.1%（58万7千人）で、女性が男性よりやや高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は4.9ポイント、女性は3.2ポイント、それぞれ低下している。

中高年齢を除き、すべての年齢階級で「趣味・娯楽」の行動者率が低下

「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別にみると、若年層で高くなっており、年齢が高くなるに従って低下している。これを平成8年と比較すると、55～64歳、75歳以上で上昇し、その他の年齢階級では低下している。

また、男女別にみると、75歳以上を除き、女性の方が高くなっている。



行動者率が高い「趣味としての読書」，「カラオケ」

「趣味・娯楽」を行った人をその種類別にみると、「趣味としての読書」が61万8千人（行動者率48.1%）と最も多く、次いで、「カラオケ」が51万5千人（40.1%）、「映画鑑賞（テレビ・ビデオ等は除く）」が49万6千人（38.6%）、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が48万3千人（37.6%）の順で、全国と同様な傾向になる。

次に、種類別の行動者率を全国平均と比較すると、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「編み物・手芸」（14.0%）、「趣味としての料理・菓子作り」（20.5%）が全国2番目にランクし、逆に「パチンコ」（12.6%）は下位にある。

10歳代では「テレビゲーム」，50歳代以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」の行動者率が最も高い

「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳では、「テレビゲーム」が最も高く、次いで、「カラオケ」，「映画鑑賞」，25～34歳では、「カラオケ」，「映画鑑賞」，「趣味としての読書」の順となっている。また、35～44歳では、「趣味としての読書」，「映画鑑賞」，「カラオケ」の順，45～74歳では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」，「趣味としての読書」，「カラオケ」が上位を占め、75歳以上では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」，「趣味としての読書」，「演芸・演劇・舞踊鑑賞」の順となっている。

行動者率が上昇した「映画鑑賞」，「趣味としての読書」など

平成8年と比較可能な「趣味・娯楽」の種類について行動者率をみると、上昇幅の大きい順に「映画鑑賞」（10.5ポイント）、「趣味としての読書」（9.8ポイント）、「日曜大工」（4.8ポイント）、「園芸・庭いじり・ガーデニング」（4.3ポイント）などとなっている。

逆に行動者率が低下したものは、低下幅の大きい順に「カラオケ」（5.7ポイント）、「パチンコ」（3.7ポイント）、「スポーツ観覧」（1.0ポイント）などとなっている。

男女別 趣味「娯楽」の種類別行動者率

